

【別紙様式】

平成 26 年度 津山市立誠道小学校

改善プラン「平成 26 年度全国及び岡山県学力・学習状況調査」今後の取組について進捗状況（12 月）

学校の取組・改善方法 (課題に対する改善方法)	進捗状況 (学期末時点)	3 学期及び来年度へ向けて (具体的な達成目標や数値目標等)
授業の中に、自分の考えを書いたり、まとめたり、説明したりなどの書く活動を取り入れる。また、新聞や新しい文章に触れる機会を授業で増やし、要旨をまとめる活動を取り入れる。(書く)	C	授業の中で書く活動を取り入れているが、書くことを苦手としている児童も多く、繰り返し指導を続けている。時事問題を取り上げて1分間スピーチをしたり、班で話し合いをさせたり、行事の作文を書かせたりなど、いろいろな活動を通して書くこと・話すことに慣れさせていきたい。
段階を追って読書活動を進め、語彙力や読解力を養う。学年必読書は全部読む。読書ノートを活用、読書活動に感想やあらすじ・紹介文などの書く活動を取り入れる。	B	学年必読書 20 冊を読むと賞状がもらえたり、おすすめの本を放送で紹介したりする取組をしているので、がんばって読もうとする児童が増えた。全校で毎日、読書カードへの記入の呼びかけしている結果、読書の大切さはわかっているものの、なかなか意欲がわかない児童もまだいる。
基礎・基本力の定着のため、チャレンジ学習に取り組む。(漢字・計算・読み取り)	A	朝のチャレンジ学習が定着し、各自のペースで続けられた。前学年の復習をすることで、学力の底上げができています。時間が取りにくいこともあるが、今後も続けていく。
学力・学習状況調査の問題(特にB問題)や、到達度確認テストを授業で活用する。定着が不十分な問題については、授業や家庭学習で復習し、定着を図る。	C	低学年は基礎基本の定着が中心だが、少しずつ応用問題にも触れさせていきたい。高学年は誠道っ子タイムを使って難しい問題にも意欲的に挑戦している。授業内での復習は時間的に厳しいが、部分的に活用するなど、指導に役立てていく。
学力支援が必要な児童に対しては、放課後の補充学習を週1回行い、基礎力の向上と定着を図る。	B	水曜日放課後の補充学習を続ける。
家庭学習に、発展的な内容のものも取り入れたり、自主学習で予習・復習にも取り組ませたりする。	B	3年生以上は自主学習ノートを使って予習・復習をする習慣が定着。国語の長文読み取りや算数の応用問題の家庭学習も続けていく。

進捗状況・「S：目標を大きく上回った(100%を超えている)」「A：目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B：目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C：目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D：目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E：目標を達成できなかった(30%未満)」